

2019年6月29日（土）に、第5回三大学研究コンソーシアムシンポジウムが宇都宮大学で開催され、多文化共生とコミュニケーションセミナーの学生7名が参加してきました。今回のテーマは「多様な学びの場の実現に向けて大学は何が出来るのか」でした。第一部は学部長・学類長、センター長による現況・展望報告、第二部は共同研究「外国人生徒の学びの場に関する研究」に関する報告という流れで行われました。

いずれの報告からも多くの学びが得られましたが、その中でも学生たちが最も感銘を受けたのは、外国人生徒入試制度を経て宇都宮大学に入学した三名の学生による体験談でした。この三名の学生たちは、それぞれ、特別枠で高校に入学した者、ブラジル学校出身者、定時制高校出身者でした。彼／彼女らがこれまで経験してきた多様な学びについての語りは、本校の学生たちがこれまで知らなかった世界を目の前に展開してくれました。それは、多文化共生について、さらに深く考えていくきっかけとなったことでしょう。



〈ポスター〉



写真1.
シンポジウム会場
の様子

以下、学生2名による感想を紹介します。

○シンポジウムに参加して感じたこと 齋藤朱里

今回のシンポジウムに参加して、宇都宮大学・福島大学で行われている学びと、多文化共生についての様々な発表を聞き、知見を広げることができました。特に印象的だったのは、外国人生徒入試制度を経て宇都宮大学へ合格した学生の方々の発表です。普段自分たちが行っている多文化共生へのアプローチについて、新たな視点を得られる貴重な機会をいただくことができました。



写真2. シンポジウム会場での学生

○懇親会に参加して感じたこと 須郷まどか

懇親会では、自分と同様に多文化共生および日本語教育に興味関心をもつ宇都宮大学の学生さんたちと互いの考えや思いを伝え合うことができました。多文化共生の考え方を日本社会に浸透させるためにはどうすれば良いのかについて共に考えました。交流を経て、まずは現状について知ることの大切さと個々人で何が出来るのかを考えることの必要性を感じました。今回の貴重な経験を今後の自分の学びに活かしていきたいと思えます。



写真3. 懇親会での交流の様子

最後になりましたが、後援会からの多大なご支援を頂戴しましたこと、心より御礼申し上げます。

担当教員：横溝環